

9

SEPTEMBER 2014
NUMBER 651

毎月1回1日発行 2014年(平成26年)9月1日発行 通巻651号 昭和52年6月21日 第3種郵便物認可

よい経営・よい経営者・よい経営環境をめざす総合雑誌

月刊 中小企業家

区長訪問 千代田区長に聞く

コミュニティを大切に魅力ある街づくりを創造

政策渉外本部 シリーズ「消費税」

中小企業家群像

新事業への意欲と創業者の思いを大切に



北海道の企業と文化歴史研修2014

今回で3回目となる文京支部 BNK538 の北海道研修は、「北海道のよい地めぐりたび」(余市巡り旅)というテーマの下、7月4日から6日にかけて行われた。

初日は札幌近郊にあるモエレ沼公園を訪問。ここはゴミ処理場の跡地を公園化したもので、彫刻家イサム・ノグチが設計したガラスのピラミッドや、40分にも及ぶ他に例を見ない噴水ショー「海の噴水」が印象的であった。

毎回恒例となっている(株)アイワード石狩工場の見学の後、夜はすすき野で海鮮料理を堪能した。

2日目は札幌から余市へ移動し、まず国指定史跡であるフゴッペ洞窟を見学。縄文時代の壁画が残り、呪術的な模様から当時の人々の生活に思いを馳せる。

続いて丘陵地の中にあるレストラン併設のワイナリー「occi gabi」へ。オーナーの落氏は過去にTV出演の経験もある気鋭の経営者で、日本の消費構造やマーケティングに疑問を抱き続け、純国産ワインとしてのブランドを確立しようと精力的に活動されている。余市はワイン用国産ぶどうの生産量の4分の1を占め、丘陵に連なる果樹園が近代的なワイナリーと一体化し、真の国産ワイン生産の一大拠点へと変貌しようとしている。

次にニッカウキスキー余市工場の見学。科学的根拠に基づくワイン造りとは対照的に、ここでは昔ながらの作り手の勘と経験に重きを置くウイスキー造りが現在でも行なわれている。同じ「酒」という範疇にありながら、その製造に際して全く異なるアプローチが同じ土地で行なわれていることは非常に興味深い。

このほか、かつてキャバレーとして使われていた建物をほぼそのまま利用し、一般的な介護施設のイメージを覆す夜間型デイサービスセンター「よいち銀座はくちょう」や、自然と共生する暮らしから地球と対峙する生き方を学ぶエコカレッジ活動、その推進に取り組むハル農園など、特色ある施設を訪問した。

夜は北海道同友会しりべし・小樽支部との交流会を開き、北海道同友会の団結力やチャレンジ精神、我々東京も含めた異文化との交流の大切さなどをお話いただいた。こうした交流が経営者としての感性を磨くことにつながるのではないだろうか。

紙数の関係もあり最終日の模様は割愛するが、今回の研修でも、地域の人と人の在り方、そして地域に密着した中小企業の目指すべき方向性を考える示唆を与えていただいた。そしてこうした中小企業家のエネルギーが大きな絆となり、未来を予見する次なる翼となるのだと感じた。

國弘 洋一郎

文京支部 協和電子工業株式会社



しりべし・小樽支部との交流会